

子どもの安全教育の体験から思うこと

都内にある建設コンサルタント会社から依頼を受けて、子どもたちに危険予知訓練（KYT）をしました。この会社は、社員の家族に職場を見て頂こうというのが趣旨で「職場探検隊」と称し、全国に5つある事業所が持ち回りで開催しています。今回は東京にある事業所が担当し、それに応えて事業所の各部室が趣向をこらしておもてなしをし、盛況だったようです。

私が依頼を受けたのは、技術統括部からで安全管理も所管していることから危険予知訓練（KYT）が提案されました。私も、どうせやるなら楽しくしなければ損だと考え、女子事務員の方に手伝って頂き、資料を整えて準備を進めました。

当日は、全10班（108人）のうち3班（32人）が時間をずらして来るとのことで、1班当り所要時間25分で収めろということでした。最初は第7班で子どもが6人（6、6、8、10、10、16歳）、次が第10班で子どもが5人（1、4、4、7、9歳）、最後が第3班で子どもが5人（5、8、8、8、13歳）です。演習用のシートは何枚か用意しましたが、そのうちから「楽しい修学旅行。みんなでウキウキ！」を選びました（図-1参照）。

午後1時過ぎに最初の班が見え、子どもたちと名刺交換をしたあと、技術統括部の担当者から仕事内容の説明があり、危険予知訓練をみんなで楽しく遊ぼう！の掛け声で始まりました。

私は、最初に子ども達に「KYを知っているか？」と問いかけたあとに、建設コンサルタント会社の色々な危険を伴う調査内容を説明し、危険予知（KY）のことを「事故を起こして痛い目に合う前に、仕事をする仲間みんなて話し合い、安全を先取りするための訓練です」と話しました。「みんなのお父さん、お母さんが、現場に行ってお仕事する前に、仕事をする仲間みんなてKYを毎日行い、事故が起きないようにしているんだよ」と説明しました。

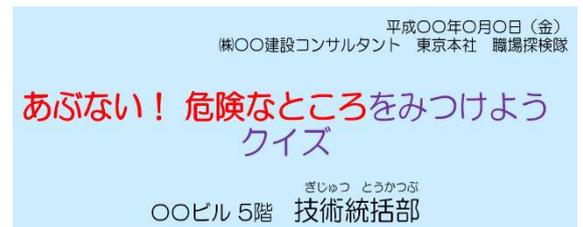
そして、ワイワイガヤガヤ話し合う前に、必ず守らなければならないルール「ブレーストーミングの4つの原則」があることを子供にも分かるように説明しました。

それは、次の4つです。

- ①批判禁止！ ひとの意見によい悪いの批判をしない。
- ②自由奔放！ 自由に奇抜なもの大歓迎。
- ③大量生産！ なんでも思いついたらどんどんだす。
- ④便乗加工！ 他人のアイデアを拝借して付け加える。

KYTには色々な方法がありますが、KYの基本である「4ラウンド方式」で練習することを伝えました。ちょっと難しい話になりはしないかと心配しましたが、子ども達の反応が良く胸を撫で下ろしました。このことが解ればKYは6割以上理解したことになります。

演習に当っては、小さい子から答える。答えた人にはゲームの参加券を渡す。ゲームは「クロヒゲ危機一髪」ならぬ「ピカチュウ危機一髪」で1本づつナイフを刺していくとキャラクター人形が飛び上るおもちゃです。当てた子は特賞とし、他の子どもにも洩れなく商品を用意しました。



危険予知訓練に熱心に取り組む子供たち

早速、演習シートを見て、ステップ1「どんなキケンがひそんでいるのかな？」と聞いて、危ないと思うところに丸い磁石を付けさせたところ、元気に次々に色んなところを見つけて答えて行きます。その後から、子ども達の発言を「〇〇（原因）だから 〇〇（結果）になる」とまとめて行きます。中には記録票の8項目を越えるたくさんの意見もできました。ステップ2「どのキケンが一番あぶないかな？」で、ステップ1で上げた意見の中から1つ選ばせます。ステップ3「どうしたらいいのかな？」でその対策を3～4個答えさせ、ステップ4「わたしたちはこうしましょう！」で対策を1つに絞ります。それをチーム目標「〇〇を 〇〇して 〇〇しようヨシ！」としてまとめ、ワンポイントとしてキーとなる言葉を選びました。

ここからが最後の仕上げ、指差し唱和の大切なところ。子ども達に左手を腰に右手の人差し指は演習シートのチーム行動目標を指差し、私が読み上げた後に大きな声で唱和させます。そしてワンポイントを私が1回唱和して続けて3回子ども達に唱和してもらいました。

たった20分ほどの時間でしたが、KYの重要な部分は伝えた感触がありました。また子ども達は期待に良く応えてくれました。

【感想】

はじめる前に訓練シートを自宅に持ち帰り、危険と思われるところを15か所くらい探しました。もうこれ以上ないだろうと思っていたら、私が想像もしなかったところが4か所も指摘されました。

子どもの想像力に脱帽です。子ども達にとってKYをゲーム感覚で楽しく学ぶことができ、効果が期待できると確信しました。

一方で気になることもあります。4～5歳の子供は直感で間髪を入れずに答えてくれますが、小学生も高学年になるにしたがい考えてから答えるようになります。

例えば、訓練シートの中で女の子が2人話をしているところを指摘したので「どうして危ないの？」と聞くと、しばらく考えて、「池に落ちて溺れる」と言うとか、橋の欄干に乗っている子を指摘しても同じように暫く間を置いて答えます。

これは、学校や家庭でやってはいけないことを理由なしに教えこまれているせいなのか？人は成長するに従い、法律や社会の決まりごとをルールと称して、理由を十分に理解する間もなく、守ることを強要されることが多くなります。

だとしたら、4歳くらいの子供の頃から危ないところを見つける目とその理由（結果）を理解できる子供に育てなければならないのかなと思いました。子どもを取り巻く環境も危険がいっぱいです。

そのための方法として危険予知訓練は有効だと実感しました。

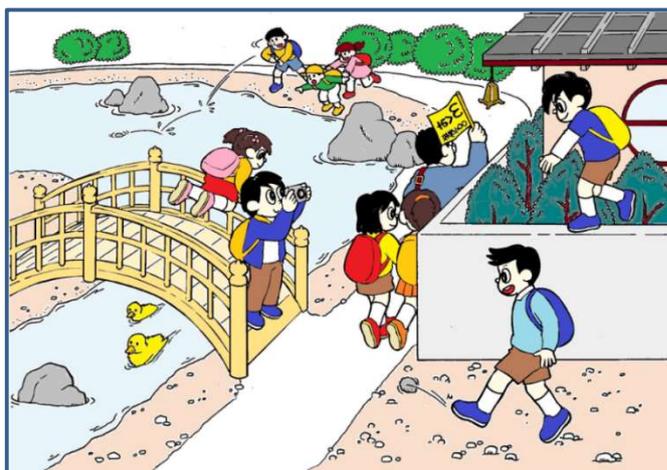


図-1 訓練シート「楽しい修学旅行」みんなウキウキ！

指差し唱和のやり方

<行動の要所要所での確認法>

(危険のポイント)



「かたちを整え魂を入れる」型から入り型から出る



ゲーム「ピカチュウ危機一髪！」